

1 題材名 カップスのリズムを作り、音楽表現をすることの楽しさを味わおう

2 本題材の目標

- (1) 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付ける。 (知識及び技能)
- (2) 音色、リズム、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつ。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音色や構成を工夫しながらイメージをもってカップスのリズムをつくって演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽表現を創意工夫することに親しむ。 (学びに向かう力、人間性等)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ A表現 (3) 創作

- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。
- イ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
- ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
- (ア) 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能

[共通事項] (1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「リズム」、「構成」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。	思 音色、リズム、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	態 音色や構成を工夫しながらイメージをもってカップスのリズムをつくって演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
②技 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、創作で表している。		

5 題材について

(1) 題材観

本題材での活動を通して、音楽を形づくっている要素の働きに気付き、表現方法の工夫をしていくことで創作する楽しさや喜びを味わいながら、音楽表現を創意工夫することのできる生徒の育成に繋がりたいと考える。カップ（コップ）を使用したリズム創作の活動から、各奏法や音の重なりによる音色の違いや特徴に気付き、それらを組み合わせることによって生まれるリズムやグループでの一体感ある演奏に面白さを感じたり演奏表現の方法の工夫をしたりする。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、事前の意識調査では約*割の生徒が音楽の授業を「楽しみである」と回答しており、音楽に対して親しみ感じている生徒が多い。一方で、「音楽の授業で不安なことはありますか」

という質問に対して「音楽は好きだが、楽譜が読めない」、「音符の種類や、音の長さ、リズムが分からない」と答えた生徒が多く、記譜や読譜に苦手意識をもつ生徒が多いことが分かった。このような生徒の実態から、本題材以前の学習において、リズムかるたを使った活動を通して読譜に対する苦手意識を軽減しながらリズムに親しみをもてるようにしてきた。また、これまでの生徒の授業への取り組みから、基礎的な技術を習得するだけで満足してしまい、その先の音楽表現へと繋げようとする生徒は少ないことが感じられた。そこで、創作活動をグループで行い、友達と対話しながら創作や演奏を試行錯誤することで、音楽表現をする面白さや楽しさを味わいながら、音楽表現の工夫を考えられるようにしたい。

(3) 指導観

今回教材として扱うカップスとは、カップ（コップ）を使ったり手拍子などを交えたりしてリズム演奏を行う音楽である。カップと手拍子などから生まれる音色の種類は多種多様であり、組み合わせを変えることで様々な工夫を試みることができる。題材の導入においては、①手拍子、②片手で机を叩く、③カップを持つ、④カップを置く、⑤カップの縁を叩く、⑥カップの底で机を叩く、⑦カップを持ち替える、の7種類の動作を用いた簡単な4小節のリズムパターンを基本動作として提示し、音色とリズムの習得を行う。この活動により、本題材における創作活動に見通しをもち、どのような音楽をつくりたいかというイメージをもてるようにする。そして、リズムカードと奏法（基本動作で示したもの）のイラストをタブレット端末上で自由に組み合わせながら4小節の音楽を考え、作品を記録する。なお、リズムカードについては、本題材以前にリズムかるたで習得したリズムを用いる。以上のように、既習事項を生かしたりICTを活用したりすることで、記譜や読譜に苦手意識をもつ生徒も積極的に創作活動に取り組み、音楽表現する面白さや楽しさを味わいながら音楽表現の工夫を考えることができるようにする。

6 題材の指導計画（4時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価及び評価方法等
1	1	<p>課題 カップスの音楽にはどのような特徴があるのだろう。</p> <p>1 カップスの特徴を知る。</p> <p>2 基本動作を練習し、各奏法による音色の特徴を捉える。 ・基本となる奏法を知る。 ①手拍子 ②片手で机を叩く ③カップを持つ ④カップを置く ⑤カップの縁を叩く ⑥カップの底で机を叩く ⑦カップを持ち替える ・基本動作を練習し、奏法による響きの違いを捉える。</p> <p>3 本時のまとめをする。 カップスとは、カップと手拍子を組み合わせてリズムを演奏する音楽である。手やカップを打つ場所や動作を変えることで、様々な音色を出すことができる。</p> <p>4 本時の振り返りを行う。 (例) カップの底で机を叩くと、固く響く音がした。身近なものでできるカップスは面白かった。</p>				○	<p>態：カップスの音楽に関心をもち本題材の学習に見通しをもつことができているかを見取る。見通しがもてない生徒には、模範演奏の鑑賞や基本動作の練習を通して、カップスの音楽への関心を高められるように支援する。【観察】</p> <p>・解説動画を電子黒板で活動中繰り返し流しておき、随時確認しながら練習できるようにする。</p> <p>①知：手やカップを使った各奏法と響きとの関わりを捉えているかを見取る。奏法による違いに気付くことが難しい生徒には、他の奏法と比較するように促し、音色の違いを感じ取れるように支援する。 【ワークシート、発言】</p>

2	2	<p>課題 リズムを組み合わせ、カップスの構成を考えよう。</p> <p>1 構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末上でリズムカード配置しながら考える。 ・つくりたい音楽のイメージと関わらせながら構成を工夫する。 ・後半に向けて盛り上がる感じにしたいので、後半を細かいリズムにする。等 <p>2 つくりたい音楽のイメージになるように、試奏したり修正したりする。</p> <p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>(例) リズムを組み合わせることで構成の効果に気付くことができた。私たちのグループでは、緊張感のある音楽をつくりたかったので、同じリズムを繰り返す構成にした。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・グループで活動することで、多様な考えから発想を得ることができるようにする。 <p>思：どのような音楽にするか思いがもてない生徒には、リズムカードを入れ替える等、様々なパターンを試しながら考えるよう助言する。</p> <p>【観察、記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムカードの順番を考えることで、音楽全体の構成を工夫するように伝える。 <p>②技：構成を考えることが難しい生徒には、生徒が選んだリズムカードを操作しながら反復や変化の例を具体的に示しながら支援する。</p> <p>【観察、ワークシート】</p>
3	本時	<p>目標：音色や構成を工夫しながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫する。</p> <p>1 本時の目標を確認する。</p> <p>課題 音色の特徴を生かして、カップスの音楽を作ろう。</p> <p>2 カップスの奏法を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本動作 ・各奏法による音色の特徴 <p>3 つくりたい音楽のイメージにするための奏法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えたリズムを確認する。 ・つくりたい音楽のイメージを確認する。 ・音色や音の重なりによる効果などをグループで話し合う。 ・前時にタブレット端末に記録したリズムに、奏法を示すイラストを配置しながら考える。 <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>リズムや音色の組み合わせにより効果や雰囲気が変わり、多種多様な音楽表現をすることができる。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>	<p>①知：【観察、ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やわらかい音色とかたい音色を組み合わせるなど、複数の奏法を組み合わせるなどの工夫をするとよいことを助言する。 <p>思：【観察、ワークシート】</p>

3	4	<p>課題 作品を演奏発表して、イメージした音楽をつくることができたか確かめ合おう。</p> <p>1 発表及び鑑賞の視点を知る。 ・発表時：イメージ通りの作品に仕上がったか。 ・鑑賞時：イメージを表すためにどのような工夫をしているのか。</p> <p>2 作品の演奏発表会を行う。 ・グループごとに発表を行う。 ・気付いたことをワークシートに記録する。</p> <p>3 本時のまとめをする。 リズムや音色、構成を工夫することで、イメージに合った音楽表現をすることができる。</p> <p>4 題材全体の学習を振り返る。 (例) つくりたい音楽をイメージしたことで、構成や音色の工夫を考えることができた。一体感のある演奏をするために、リズムをそろえるように工夫した。他のグループの演奏を聴いて、多様な音楽表現があると感じた。</p>					<p>・目的意識をもって取り組めるように、発表、鑑賞の両方の視点を提示する。 ・鑑賞の際には、作曲者の視点から、自分のグループとは違う表現を見つけながら聴くように伝える。</p> <p>技②：【演奏発表】 ・タブレットで発表の様子を記録し、生徒が自らの演奏を振り返ることができるようにする。</p> <p>態：【観察、ワークシート】</p>
---	---	---	--	--	--	--	--